

放射線科研修プログラム

I プログラムの一般目標 (GIO)

医師としての人格を涵養し、社会的役割を認識しながら、患者さんに対する全人的医療を実践するために、日常臨床における科学的知識に基づく画像診断や放射線治療の実際を理解し、放射線防護と安全管理の知識を習得する。

II 行動目標 (SBOs)

1. CT、MRI、核医学検査の原理や方法、適応などを理解できる。
2. 撮像されたCT、MRI、核医学検査について、代表的な疾患の画像診断を習得できる。
3. 造影剤の適応と投与方法及び副作用と対処方法の知識を習得できる。
4. IVR (インターベンショナル・ラジオロジー) の適応、基本手技、合併症などを理解できる。
5. 放射線治療(外部照射、密封小線源治療、RI 内用療法)などの特徴と実際を説明できる。
6. 患者およびその家族、医療者とのコミュニケーションをとり、診察や診断を行い治療方針を立案できる。
7. 問診、画像情報などを通して患者、その支援者に寄り添った治療計画を作成できる。
8. 治療効果判定、有害事象の検討、治療後の経過観察について評価できる。
9. プライバシーに配慮し、患者および家族に対してインフォームド・コンセントを実施できる。
10. 多職種によるチーム医療の重要性を理解できる。
11. 高額医療などに関わる医療費助成制度を理解できる。
12. 疼痛緩和、止血治療、緊急照射など緩和的放射線治療について実践できる。
13. 電離放射線によるDNA損傷の作用機序や生体反応、放射線の全身への影響、放射線防護に関して理解できる。

III 方略 (LS)

1. 上級医・指導医の指導のもと、CT、MRI、核医学検査の読影を実施し、結果を解釈する。
2. 指導医および上級医とともに放射線治療外来の患者の診察や放射線治療計画を学び、治療中および治療後の経過を経験する。
3. 上級医・指導医の指導のもと、放射線の生物作用、物理作用および放射線防護と安全管理を理解する。
4. 放射線科ネットカンファレンスに産科し、上級医・指導医の指導のもとに症例のプレゼンテーションを行い、積極的に討議する。
5. 指導医、上級医または指導者とともにカンファレンスに参加し、治療計画について討議する。
6. 指導医及び上級医とともに緩和ケアチームと連携を図り、患者、その支援者に寄り添った症状緩和を実施する。
7. 上級医・指導医の指導のもと、臨床的疑問に対して治療診断指針、ガイドライン、インターネットでの文献・情報収集を用いて最新の情報を収集する。

IV 経験すべき疾患

1. 脳神経疾患
2. 循環器疾患
3. 呼吸器疾患

4. 消化器疾患
5. 整形外科疾患
6. 泌尿生殖器疾患
7. 耳鼻咽喉科疾患

V 評価 (EV)

1. PG-EPOC による評価を行う。

放射線科スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	カンファレンス	カンファレンス		カンファレンス	消化器カンファレンス
	テキスト学習	テキスト学習	放射線治療 初診外来	テキスト学習	テキスト学習
	読影 (実践)	読影 (実践)	読影 (実践)	読影 (実践)	読影 (実践)
午後	放射線治療 治療計画実習	読影 (実践)	IVR	読影 (実践)	読影 (実践)
	読影 (実践)		読影 (実践)		
	岐阜県病院放射線科間ネットカンファレンス				